

平成30年度 第1回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

- 開催日時：平成30年5月8日（火）18時30分～20時40分
- 開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室
- 出席委員：小野修平、谷口陽香、戸田亘、富澤佳代子、阿壽子、渡辺裕一
＜以上6名、敬称略、五十音順＞
- 出席役職員：佐藤文俊、小平勝一、飯塚和幸、嶋田孝雄、長山清美

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会運営委員名簿
- 資料 2：西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会設置規則
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（平成30年3～4月）
- 資料 4：コーディネート状況等月次報告（平成30年3～4月）
- 資料 5：ボランティアコーディネート実績表（平成30年3～4月）
- 資料 6：災害ボランティア講演会 実施報告
- 資料 7：平成29年度ボランティア・市民活動センター係事業報告
- 資料 8：平成30年度福祉活動推進課事業計画（ボランティア・市民活動センター係）
- 資料 9：平成30年度ボランティア・市民活動センター係予算概要（主な事業費）
- 資料10：平成30年度西東京ボランティア・市民活動センター事業・事務執行計画
- 資料11：平成30年度ボランティア・市民活動センター係 事務役割分担表
- 資料12：平成30年度西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会開催日程
- 資料13：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（5～6月）
- 資料14：平成29年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録
（未定稿）案
- 資料15：ボラフェス2018 事業実施企画書
- 資料16：夏！体験ボランティア西東京2018 事業実施企画書
- 資料17：西東京ボランティア・市民活動センターの5つの取り組み（5つの柱）
- 資料18：西東京ボランティア・市民活動センターの5つの取り組み（5つの柱）
ポンチ絵（Ver3）
- 資料19：ボランティア・市民活動センター事業の5つの取り組み（5つの柱）への分類
- 資料別冊：平成29年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録
＜確定稿＞
- 資料別紙：ぼらんていあ倶楽部第102号

1. 委 嘱 状 交 付

- (1). 委嘱状交付
- (2). 自己紹介（資料1） ＊委嘱状の交付と自己紹介を行う。

2. 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会について

- (1). 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会設置規則について（資料2）

＊以上の規則について、事務局より説明をする。

3. 報 告 事 項

(1). 業務報告(平成 30 年 3 月・4 月)について (資料 3～5)

- ・ボランティア登録が増えている部分と、4 月ということで減っている部分とあるようだが、例年の 4 月と比較すると増えている状況でスタートしたという理解でよいかな。
→現在、とボランティア登録確認を行っているところだが、今年度の登録中止の回答が 40 件超えて届いており、5 月は大幅に減少する可能だが考えられる状況である。
- ・大幅に減少した点についてどのように分析しているか。
→中止になった方は、長く活動されていた方、年齢的なこと、体調不良、登録はしていたが活動につながらなかった方が多い。就職によるものや転居による中止もある。封筒に「重要」という印を押すようにしたことで、内容をしっかり見て回答してくれるボランティアが多くなったためと考えている。
- ・年齢的にはどの年代が多いか。
→70 代後半が多いが、60 代でも活動につながらなかった方からは中止の連絡が入っている。
- ・その人がやりたいという活動に出会えなかったということだろうか。
→そのような方もいる。過去に紹介した活動以外の活動は難しいという方もいて、活動は継続しているが、登録は中止する方もいる。
- ・ボランティア活動をやっていて良かったと思える満足度を高める仕組みが必要だろう。
- ・ここが見えてきたからこそ、ボランティアを続けてもらうためにどのようにしたら良いか打つ手を考えられると思う。
- ・28 年度末と 29 年度末の数字を比較すると、新規ボランティア登録者数は 38 人増えている。また相談受付状況も約 200 件増えている。大変だったのではないだろうか。
→相談受付に関しては、28 年度は試行的な状況でまだ慣れていなかったため、すべてを数字として起こしきれなかった。29 年度は慣れてきてしっかり集計できるようになったので、30 年度と正確に比較できるようになるのではないかと考える。
- ・新規登録ボランティアの数をどう維持して、活動を続けてもらうかも大切だろう。

(2). 災害ボランティア講演会の実施報告について (資料 6)

- ・特にご意見等無し。

(3). 平成 29 年度西東京ボランティア・市民活動センター事業報告について (資料 7)

- ・児童生徒への福祉教育への協力について、市内にはもっと小中学校があると思う。学校側に対し、どのような周知をしているか。
→昨年より、7 月に行われる市内の小中学校校長が集まる校長会で周知している。総合学習の内容については、各小中学校が選んで決めるものとなっており、その学校ではボラセンに依頼せずに他の人に依頼する、あるいは別の内容にするとすれば依頼は来ない。
また、東京オリンピックに向けてオリパラ教育が盛んになっており、その関連で相談も入ることもあるが、すべての相談に対しボランティアや当事者を紹介することができないため、その場合は他機関を紹介している。

- ・登録しているボランティアあるいは把握しているボランティアグループ、当事者の情報を持って相談を受けるのではなく、相談があってから始めて探すといった状況なのか。
→校長会には協力できる分野の情報を資料として提示している。
- ・高齢者体験の学習が無いようだが何か理由はあるのか。
→高齢者の疑似体験は各学校で行っているため依頼がない。また盲導犬や点字に関する依頼が多いのは、小学4年生で視覚障がい者に関する授業を国語で行うことも理由の一つであると考える。
→学校の授業の関係で9月から11月に依頼・紹介が集中しているため、ボランティアグループや当事者の方のスケジュールリングが困難な状況もある。小中学校には余裕を持ってもらうようお願いしているところである。
- ・中学校の依頼が少ないようだが、やはり忙しいのだろうか。
→とある中学校の校長からも話があったが、やはり中学生は忙しい様子である。
近いうちに市内の中学校で中学生向けのボランティア講座を行う予定である。
- ・次回の事業報告書には、ぜひ校長会に行って説明している旨を記載した方が良い。プロセスが大切だと思うので報告に入っていると良い。福祉教育に向けた大事な働きかけになると思う。
- ・西東京市内に障がい者スポーツを楽しんでいるところはあるのだろうか。
→障害福祉課が余暇活動の一環としてスポーツセンターで水泳などをやっている。
→国立市に障害者スポーツセンターがあるが、そちらに行っている方も多く、西東京ではあまりいないと思われる。
→ゆめこらぼの登録団体で「ぶーけ」という団体がルピナスを拠点にボッチャをやっている。

(4)．平成30年度西東京ボランティア・市民活動センター事業計画・執行計画・役割分担について

(資料8～12)

- ・目標値の話が出た。西東京市民20万人のうち20人の新規ボランティア登録者目標数となっており、人口に対して0.01%である。現在300人以上の登録者がいるが、登録者は本当はどのくらいボランティアが必要なのかというところから計画を作っていかなければいけないだろう。
- ・人口20万人は多摩地区でも多い数字だろう。
- ・様々な会議に参加しているが、ボラセンの認知度が非常に低い。ボラセンのアピールをもっと前面に出してやったほうが良いだろう。ほっとネット、りんく、ふれまち、シルバー人材センターは名前が良く出てくる。
- ・「りんく」のようなわかりやすい名前も良いのでは。
- ・もともとほっとネットやふれまちはボラセンとの関わりはあるのではないかと。
→どれも市民によるボランティア活動である。ボランティアの登録者数が400前後である中には、ほっとネットやふれまちと重なる人もいる。各事業にも300人ずつくらいの協力者がいるので、延べで考えても1300人はボランティアがいることになる。400の数字がそもそもの目標値として適切なのか、今の西東京市で展開されている市民の力を活用しながら活動していく総体と一緒に考えていく必要があるだろう。
- ・なかなか難しいという話も聞いているが、一つのフォーマットでボラセンがきちんと把握できれば重複が整理でき、ボランティアの総数が把握できるだろう。
- ・ボラセンを知らずに活動している人も非常に多い。それを変えていくことは、ボランティア活

動をする方々の環境を良くしていくことにつながるだろう。

- ・施設のボランティア担当者からは、施設ボランティア担当者連絡会の開催希望が出ている。
- ・ケアマネージャーの集まりでの宣伝も必要だろう。
→毎年2月に社協の宣伝をさせてもらっている。今年は災害をテーマにした内容を予定しているようだが、その中にボラセンの紹介も加えられたら良いと考えている。
- ・ボランティア活動をまだしていない人をいかに発掘するかが課題だろう。

(5). 業務予定(平成30年5月・6月)について (資料13)

- ・特にご意見無し

4. 審 議 事 項

(1). 平成29年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)案について (資料14)

- ・確定稿とすることについて承認される。

5. 協 議 事 項

(1). ボラフェス2018の実施について (資料15)

- ・昨年は190名の参加で、今年度は200名を目標としているとのことだが、300名でも400名でも参加者がいると良い。どうやって参加者を増やすか考えられると良いだろう。
- ・体験コーナーなどは、小・中学校の生徒にもぜひ来てほしい。
- ・市内にはいろいろなところで「ボランティア」という名称の募集がある。運営委員としては、ボラセンを通じて参加してほしいという思いもあるが、認知度が低いこともあるのか、なかなか一つにまとまらない。
→自分たちが動いてしまった方が良いと思って、独自に募集をしているところが多いのだろう。協力したほうが良いのだろうが、知らないのかもしれない。
- ・傾聴ボランティアグループのロッキーが参加するが、傾聴ボランティアグループ全体で協力する予定。NPO市民フェスティバルはきずなが中心となって参加している。
- ・例年、内容はあまり変わっていないのか。
→基本的な内容は変わらないが、ステージの発表団体はここ数年、半数くらいが入れ替わっている。今年は、芝久演芸倶楽部の落語が復活したり、地域福祉活動計画の特技披露や mari-san's の発表などが加わっている。昨年好評だったのは、smile buttons の被災してから活動の話で、被災された方の話を聞く機会として高い関心があった。

(2). 夏！体験ボランティア西東京2018の実施について (資料16)

- ・小学生以上で大人も参加可能という説明があったが、東京ボラセンでも、シニアの「第2の人生」ということではないが、大人でも幅を広く参加できるということをPRをしているので、そのようにPRしても良いのではないだろうか。また、受け入れ側にも「体験」ということを意識してもらい、「労働力ではない」ということを理解してもらっている受け入れ団体であるこ

とを保護者に説明するようにしている。安心してボランティアに参加できるということをうまくPRできると良いだろう。

- ・高齢者に紹介するにはどこに持って行ったら良いのだろうか。シルバー人材センターでも良いのか。

→良いと思う。「体験」ということをアピールできる良い機会だと思う。ボランティアというより、一歩手前のところで考えてもらえるのではないかな。

- ・お願いするのは大変だろうが、総合福祉センター内の老人福祉センターや福祉会館の各種教室などでもチラシを配布させてもらえると良い。

→各施設にはチラシは配布しているが、各教室の配布まではしていない。

→ぜひもう一歩踏み出していただけると良い。

→夏ボラのPRをしてもらえるボランティアを探して、チラシを配布しても良いだろう。

→各種教室では、ボランティアによる配布は難しい状況にある。窓口を通じてもらう方が良いだろう。

- ・児童館はチラシの配布先になっているのか。

→市内の公立小中学生全員に配布しているので、改めては配布していない。

- ・チラシにQRコードが掲載されていると中高生はホームページから見る人も多くなるだろう。

→ポスターが良いのかもしれないが、ポスターを貼ってもらえる学校は少ない。チラシに掲載して、A4で貼り出してもらうことも一つかもしれない。

→児童館側からすると、掲示したい思いはある。

→高校は全生徒に配布していないので、QRコード入りのポスターもありかもしれない。

- ・二重撒きになるかもしれないが、学童や児童館などに配布することも一つだろう。

- ・イオンなどにも掲示してもらっているのか。

→チラシは配架してもらっているが、掲示はしていないと思われる。

- ・他のスーパーはどうか。

→コンビニやドラッグストア、いなげやなどにも依頼したことはあるが、本部への確認で許可が下りなかったところが多い。コンビニによっては、店舗による判断になる場合があるとの回答ももらっている。店長によっても異なるので、一軒一軒当たらずにはいけない場合がある。

- ・ボラセンの運営に協力してくれるボランティアがいても良いだろう。職員だけではやりきれない。それに協力してもらうことにより、こういうボランティアがあるということにも気づいてもらえるのではないかな。

- ・オレンジリングを持っている認知症サポーターの活動メニューがないことが行政の悩みになっている。りんくを中心にボラセンも協働して活動メニューを一緒に考えているところだが、そこでも夏ボラを紹介し、ステップを踏んでもらうことを考えている。上手くつながれば、幅広い年齢層の参加者が見込まれるのではないかと考えている。

- ・新しいチャンネルを増えてくるかもしれない。

→これは絶対必要だと思う。あとのケアがなかなか難しいので、気楽に認知症の多い施設での体験につながれば良いと思う。

- ・オレンジリングは講習を受ければもらえるが、そのあとのステップがない。ヘルプカードに関する講習会も同じである。次につながらない。個人情報の問題もあるだろうが、一本釣りでも協

力してくれる人に声掛けをする方法もあるのではないかな。

- ・夏ボラでの体験の後にもボランティアを受け入れてもらえれば、一つのステップになる可能性はあるだろう。それは可能だろうか。
- ・ボランティアの活動場所として考えると、大きな差があるのが実状。デイサービスは活動の場所としては非常に可能性があるが、入所施設だと、どこかで任せっきりになってしまうこともあり、ボランティアのケアまでは正直できない現状もある。入所施設での活動となると、書道や絵を描くなどの内容が明確になっているものなら想像がつく。また、重介護者が増えてきているので対象となる人がいないかもしれない。
- ・夏ボラではデイサービスの受け例は多いのか。
 - 市内の様々なデイサービスに受け入れをしてもらっている。
 - デイサービスも市内に多くあるが、入所施設併設型などでは重介護者が多いと思われてしまうところもあるので、そうするとなかなか活動先としては見てもらえない部分もあると思われる。

(3). アクションプラン（仮称）の策定について（資料17～19）

- ・この目標に向けて適切かどうか、本当に必要な事業なのかどうか、一方で、新しい目標に向けてやらなくてはいけないもの、充実させる必要がある点などを具体的に考えていくプロセスに入っているので、それを文字にしてアクションプランを作っていきたい。
- ・「こんな事業があるのか」とか、わからない事業については事務局に確認していただきながら検討していただきたい。
- ・理念を作っていくことも大切だが、今回の計画では職員が具体的にどのように取り組んでいくのか、また、ボラセンで取り組む必要がある事業なのかという投げかけも含めて整理していきながら、ボラセンが機能できるよう、活動できるようにすることを目指した具体的な計画にしていきたい。今回は時間がないために、具体的な部分での検討を次回以降お願いしたい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

■開催日時：平成30年7月10日（火）18時30分～20時30分

■開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室

(2). その他

○運営委員の事業への参加協力について

- ・前回の運営委員会でも確認したが、運営委員のみなさんにも事業への協力をお願いしたい。これまで関わっているものに、さらにかかわりを深め、考察していただいたり、さらに他の事業にも関わっていただけるとありがたい。それぞれの立場でのご協力をお願いしたい。

●以上をもって平成30年度第1回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。